

【三浦市】
校務DX計画

1. 「校務DXチェックリスト自己点検結果」における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」(令和5年度)に基づく自己点検結果(確定値)より、本市の達成状況の得点は以下の通りである。

	達成状況得点	神奈川県全域平均得点
学校	225.6	352.5
学校設置者	210	241.9

三浦市の校務DX化において、現在のチェックリスト結果が全国平均を下回っていることが明らかになった。この結果を受け、以下に挙げた具体的な対策方法を基に改善を図る。今後、各学校での運用が円滑に進むよう、さらに効果的な取り組みを実施する。

2. FAX・押印の見直しに向けての検討

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」(令和5年度)に基づく自己点検結果(確定値)より、FAX・押印に関する回答が以下の通りである。

- ・業務にFAXを使用している学校 : 100%
- ・保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類がある学校 : 100%

本市として、FAXおよび各種書類における押印の見直しを行い、教育委員会および学校間のやり取りにおける負担軽減を図る。同様に、学校通送による紙媒体の送付についても見直しを行っていく。

令和7年度から、学校に対してFAXでの書類送付や押印を求めている関係団体や事業者を把握し、可能な限りデジタル化やペーパーレス化への協力を依頼し、制度や慣行の見直しを促す。また、事業者とのやり取りについても、効率的な方法を検討し、業務の負担軽減につなげる。

3. 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に向けての検討

本市では、令和6年度に校務支援システムを導入し、教員の校務負担軽減を図る。このシステムの導入により、出席管理や成績処理といった日常業務が効率化され、教員が児童・生徒と向き合う時間のさらなる確保を目指す。また、地域や保護者への通知・連絡業務を簡易化し、わかりやすく情報を発信するための支援も検討し、保護者の理解促進と教員の負担軽減を同時に進める。

4. クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進に向けての検討

文部科学省では、クラウド環境を活用した校務環境に関し、教育DXに係る当面のKPIとして、以下を示している。

- ・クラウド対応の教育情報セキュリティポリシー策定済みの自治体：

49.1%（R5）→100%（R7）

今後、教職員の多様な働き方や新しいシステムの導入に対応し、教育情報セキュリティポリシーを適宜改訂させていくことを検討する。具体的には、次回の校務端末の入れ替わり等、校務環境が変わるタイミングを目安に検討する。

5. 次世代の校務システムの導入に向けた検討

文部科学省では、次世代の校務システムの導入に関し、教育DXに係る当面のKPIとして、以下を示している。

- ・次世代の校務システムを導入済の自治体の割合：現状未把握→100%（R11）
- ・教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理を行っている自治体の割合：現状未把握→100%（R11）

本市では、令和6年度に校務支援システムを導入したばかりであり、まずは既存システムの有用性を検証しつつ、効果的な運用方法の確立を目指す。特に、学校規模の縮小や教職員数の減少が進む三浦市の実情を踏まえ、業務の効率化と教育活動の充実を両立するための課題を明確化する。さらに、次世代の校務の在り方を見据え、デジタル化の推進や業務の分担に必要な機能の導入を検討し、継続的に改善を図っていく。以上の内容を令和10年度には、翌令和11年度の校務支援システムの入替わりに向けて検討を始める。